



医療福祉・在宅看取りの地域創造会議 通信 第61号



平素は、「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」へのご理解・ご協力ありがとうございます。

8月26日(日)に開催いたしました、「H30年度医療福祉・在宅看取りの地域創造会議総会・研修会」には100名の方がお越しくださいました。皆様にとって、実のある研修会そして意見交換会となっていれば幸いです。今後とも、医療福祉・在宅看取りの地域創造会議をよろしくお願いします。



H30年度 医療福祉・在宅看取りの地域創造会議総会・研修会



この会は行政・医療福祉の関係者、県民の皆様が自覚者の一人として自主的に参画し、活動を展開している。全国的にも例がなく、滋賀県の大きな財産である。 由布副知事

その方がその方なりに死を受け止め、家族が別れを受け止められるように多職種が支えていく。それが結果的にはふるさとづくりや地域づくりにつながる。 越智代表幹事



日時：平成30年8月26日(日) 14:00~17:15 (受付13:30~)

場所：ピアザ淡海 大会議室

総会平成29年度事業報告・決算報告/平成30年度事業計画(案)・収支予算(案)

基調講演「地域をつなぎ“住み慣れた家での生活”の実現に向けて～認知症になっても安心して暮らせる街づくりへの挑戦～」

講師：医療法人静光園 白川病院 医療連携室 室長 猿渡 進平 氏

シンポジウム

「地域包括ケアの実現に向けて～『暮らしを支える』私たちの取り組み～」

シンポジスト：公益社団法人 豊郷病院 力石 泉 氏

医療法人青葉会 訪問看護ステーションさと水口 駒井 和子 氏

社会福祉法人 虹の会 杉本 学士 氏

コーディネーター 猿渡 進平 氏、角野 事務局長

意見交換会：「地域共生社会の実現のために私たちがすべきこと」

意見交換会

- 在宅での介護がベストではないこともある。施設に入って本人も家族も幸せな時間が増えた事例もある。結局は、互いが幸せになるような環境作りをしていくことが大切。
- お話の中で、退院時のカンファレンスに民生委員や地域の住民さんが入っていることに驚いた。カンファレンスは病院関係者で行うことが主だったため、もっと民生委員さん等、地域の方と関わっていけたらよいと思った。
- 薬剤師の力があれば薬に関する問題は解決しやすくなる。しかし、まだ十分に薬剤師の役割が住民にも多職種にも認知されておらず、薬剤師自身も支援が必要な方に関わりきれていない。もっと訪問等で関わっていければ、他の方の理解も進むのでは？
- 在宅療養するための情報をもっと知らなくてはいけない。
- どんな人にも出番と役割が必要。この人なら何ができるか、役割を見つけることが社会的意欲につながる。
- 今、外国の方同士での情報のネットワークもできているが、そこに正しい情報をうまく伝えていく必要がある。また、外国の方が来られた時にどうしても対応がドタバタしてしまうため、外国の方に合わせたシステムも整えていきたい。
- 病院のスタッフで病院も地域包括ケアの一部を担っていることを意識できている人は少ない。そのような意識を持てる人材育成が必要。
- 「認知症の方の生活が住民からは見えにくい」という声(困っていること)から、地域の集まる場を空き家等を利用して(もったいないこと)一緒に作った事例のように、地域の困っていることともったいないところを掛け合わせていくことが大事。
- お年寄りの疾病の問題から、認知症にならない、ロコモティブシンドローム予防などのような意識が地域から出てくると広がりやすい。

滋賀県に縁のある厚生労働省からの参加者の方々

「今日伺った話からどんなことができるのか考えていきたい。」「制度が現場の人の『取り組みたい』という気持ちの妨げになってはいけないと強く感じた。」

などのお言葉をいただきました。

- 川野 宇宏さん(厚生労働省 健康局難病対策課)
- 福田 誠一さん(厚生労働省 健康局難病対策課)
- 中國 和貴さん(厚生労働省 年金局総務課)
- 櫻井 公彦さん(厚生労働省 社会・援護局援護企画課)
- 西川 宜宏さん(厚生労働省 医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全企画課)
- 免田 圭介さん(社会保険診療報酬支払基金 審査企画部 分析評価室)



医療福祉・在宅看取りの地域創造会議 中村・三上

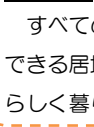
猿渡先生



住民の生活の裏に医療・福祉の専門職が顔の見える関係で寄り添うことで安心した生活を送ることができる。そのような地域の支援があれば、独居の方や認知症の方でも安心して生活していける。

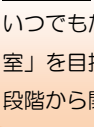
また、支援をしていく中で社会的欲求・承認欲求・自己実現欲求を満たすことは難しい。これらを満たせるように一人一人に向き合い、よりよい支援をしていきたい。

力石さん



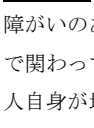
すべての人にとって落ち着いて過ごせる安心できる居場所と孤独・孤立からの回避が、その人らしく暮らしていくための支えとして必要。

駒井さん



いつでもだれでも予約なしで来られる「まちの保健室」を目指している。訪問看護だけでなく、予防の段階から関わられるような体制作りを考えていきたい。

杉本さん



障がいのある人が社会参加できるように先駆的な形で関わっていき、その内に自然な形で障がいのある人自身が地域に行くことができたらいと考える。